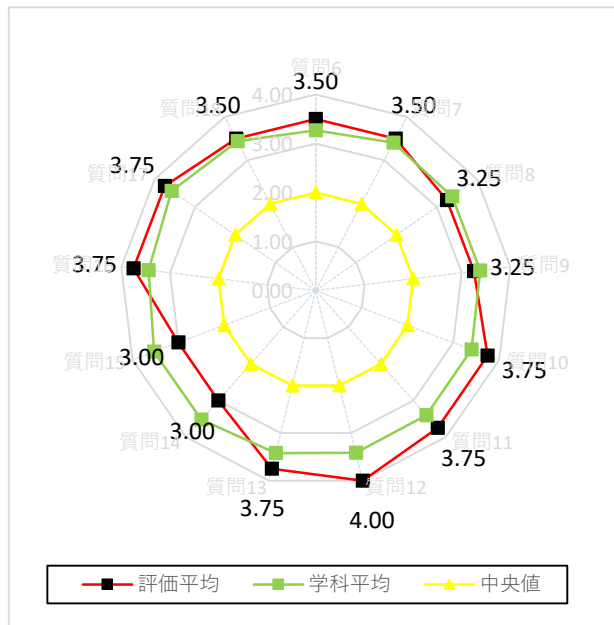
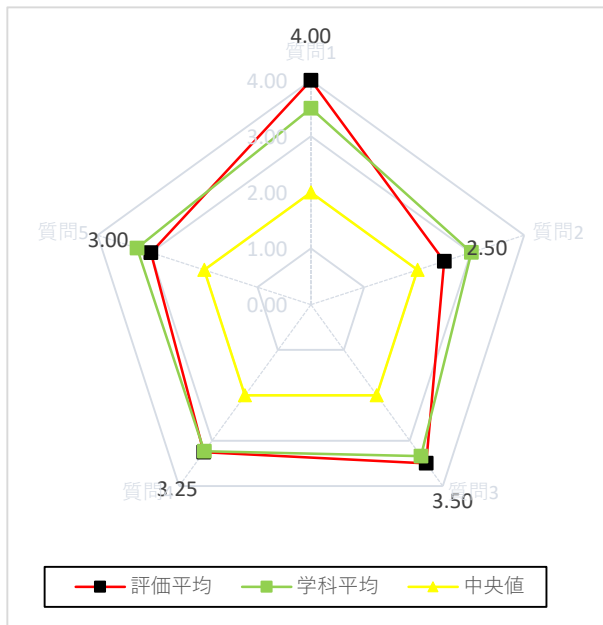


学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		あすなろう I 基礎 (初 年次教育含)	7名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

本科目においては、科目ガイダンスにおいてシラバスを活用した授業構成や評価についての説明がなく、学生は目標を明確にできずに科目が進行していった。

担当教員への具体的な説明がなかったため、教員による格差があり学生にとっては公平さに欠けていたと考える。

評価についてもボランティアによる評点が不明確で、最終段階になっての説明となり、学生が分からぬままとにかくボランティアで得点しておくといった計画性のない取り組みの学生が見られた。

質問に来た学生には科目責任者に確認しながら、本科目の到達目標をシラバスで示し、学生の納得のいく具体的な学習行動を説明をしていったが、他教員との格差は不明である。

学生のボランティア実施後のレポートは指導しても感想レベルで終わり、既定の内容に対する記載は数名であった。「とにかく、点数のためにボランティアをする」といった学生がおり、全員のボランティアの育成にはいちゃらなかった。

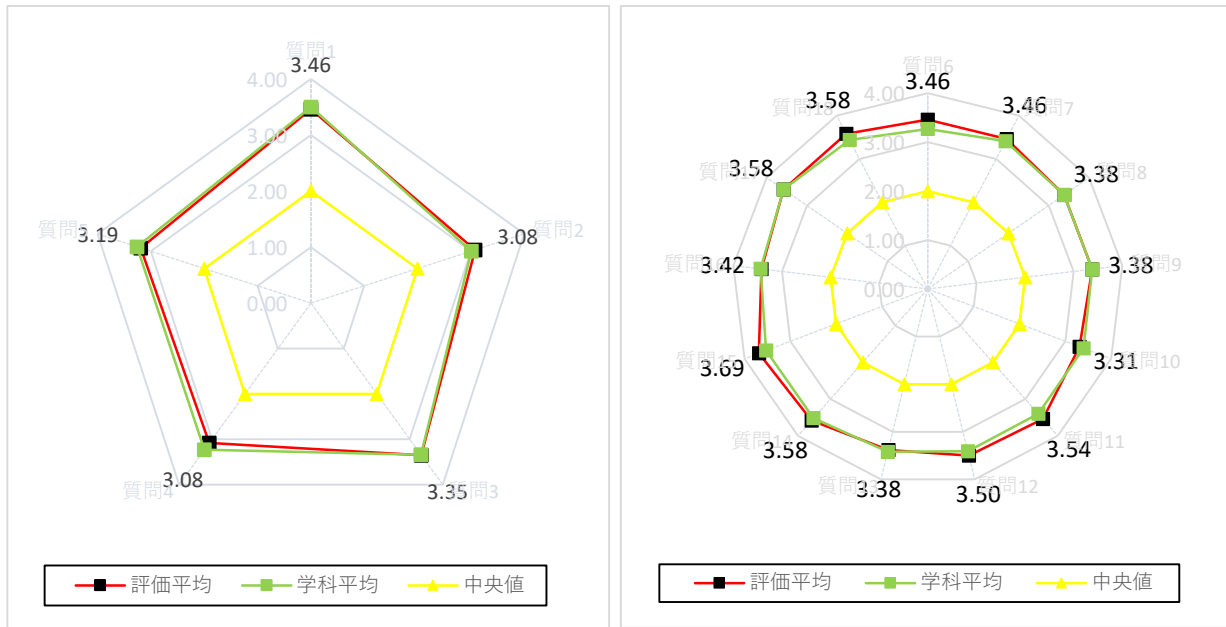
### (3) 次年度に向けての取り組み

科目責任者による初期段階の計画と担当教員全員が共通理解できる打ち合わせ等が必要である。また、シラバスを活用した学生への学習内容と評価の具体的な説明が必要と考える。

社会人基礎力の成長を学生自身が評価できるような事後レポートに記入への指導が必要であるが、昨年度、他教員はそこまで言わないとの声があり、教員の指導の格差をなくす工夫が必要と考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部 看護学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉 リハビリテーション 看護		生活支援	30名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

全ての項目において、ほぼ平均と同じ値の評価が得られた。

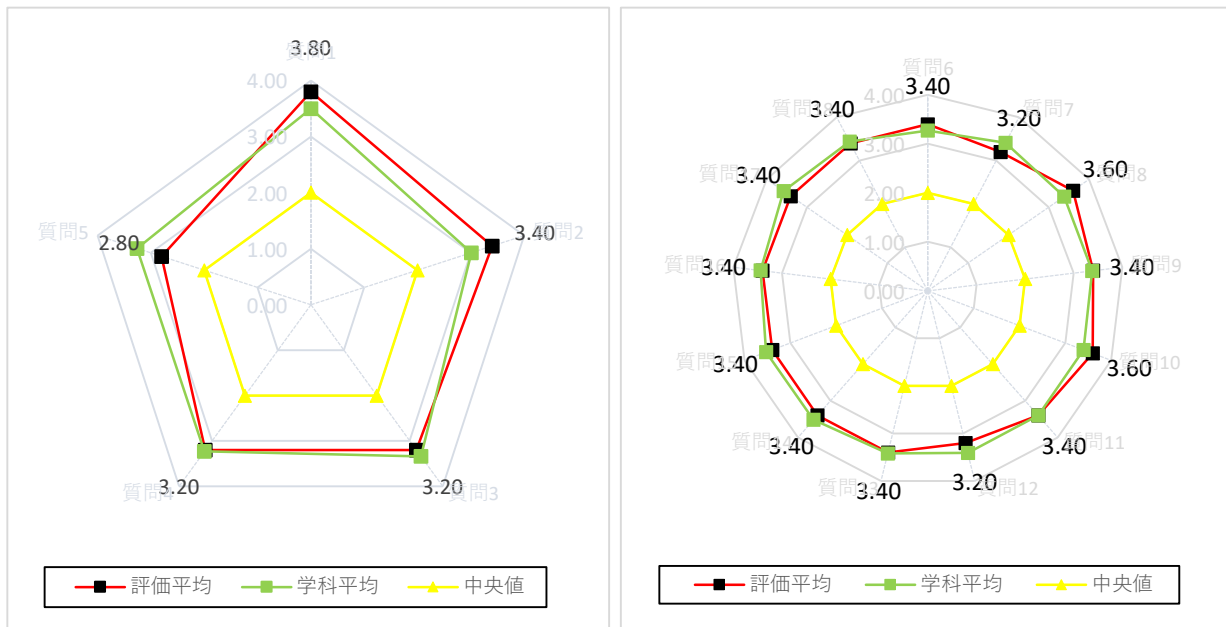
### (3) 次年度に向けての取り組み

本科目は各学科から計9名の教員が担当するオムニバス形式で実施されていることから、内容の統一化と共に、受講学生に戸惑いや不安感を与えないよう注意し展開していく必要がある。



学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 看護学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉 看護		地域連携	25名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

学生の自己評価が低い傾向にある。授業に関しては、質問7、12、17が低い傾向にある。

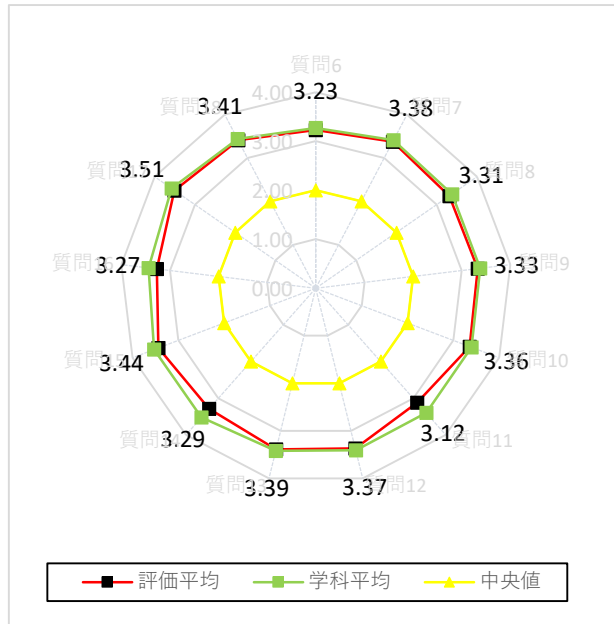
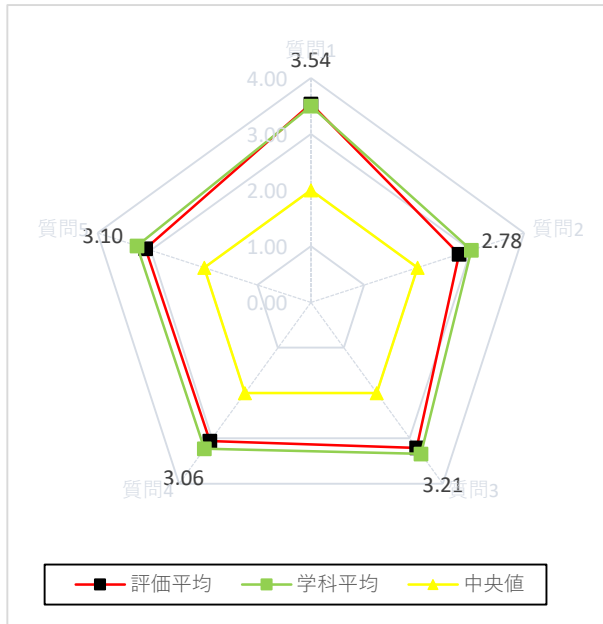
### (3) 次年度に向けての取り組み

オムニバス形式で複数の教員が担当する科目であることから、教員間での評価のばらつきが生じたと思われる。次年度は教員間での情報共有を強化し、授業に取り組んでいきたい。



学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部 子ども学部 看護学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉 リハビリテーション 子ども 心理カウンセリング 看護		現代社会と倫理	205名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

シラバスの説明、教科書、学生の質問、双方向授業、の4項目で学科平均を下回っている。

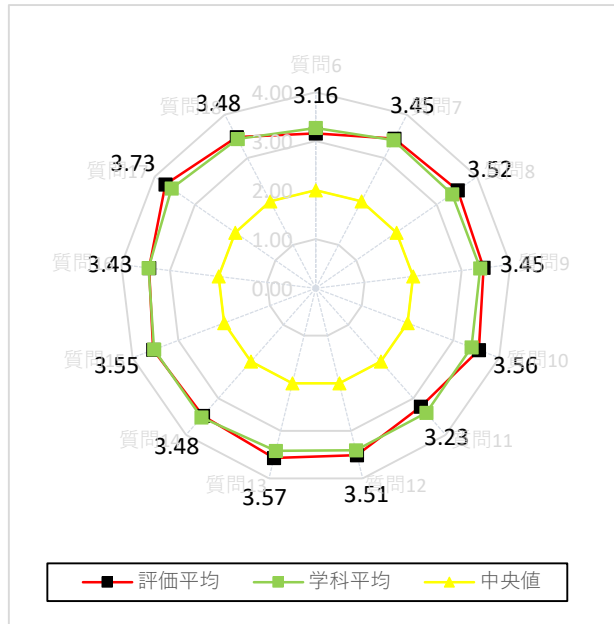
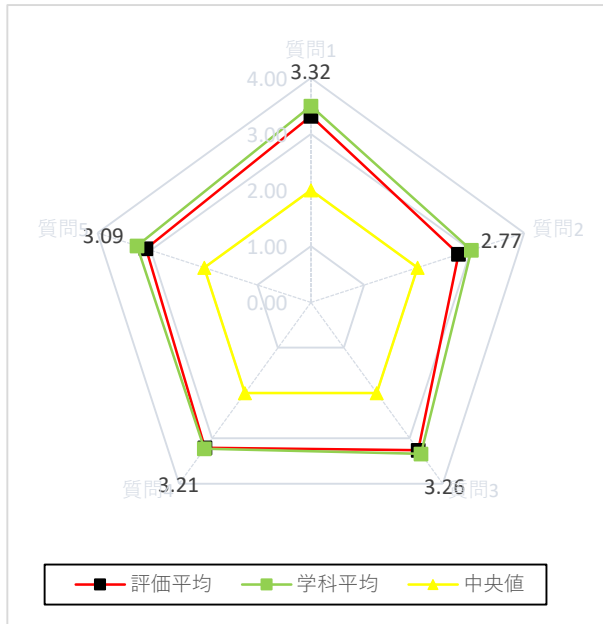
### (3) 次年度に向けての取り組み

学科平均値を下回っている項目に関しては、さらに気をつけた授業運営に取り組みたい。



学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部 子ども学部 看護学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉 リハビリテーション 子ども 心理カウンセリング 看護		人間論と現代思想	201名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

ほぼすべての項目で学科平均値に近い数値を示している。シラバスの説明、教科書についての評価が若干低くなっている。

### (3) 次年度に向けての取り組み

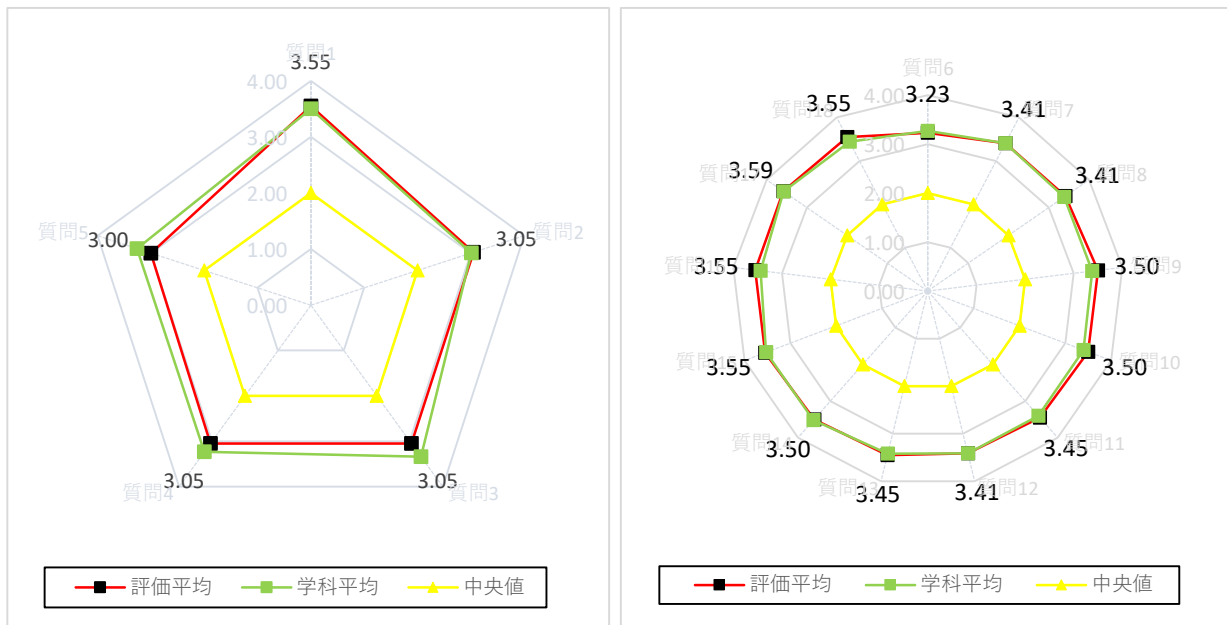
シラバスの説明は行っているが、まだ十分に認識されていないことがわかった。教科書も使用しないことを説明しているが、こちらも十分に認識されていない。次年度は説明をもっと十分に行いたい。





学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部 子ども学部 看護学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉 リハビリテーション 心理カウンセリング 看護		脳と認知科学	69名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

全学的に興味を持ってもらうための工夫が教員間でできていたと思われます。

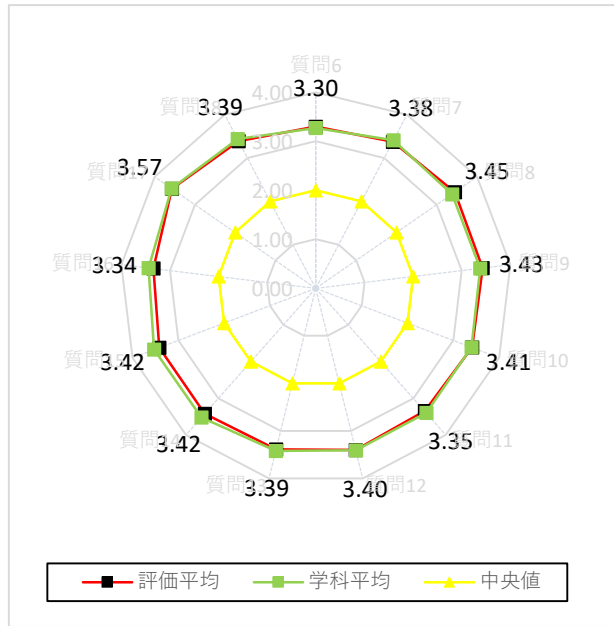
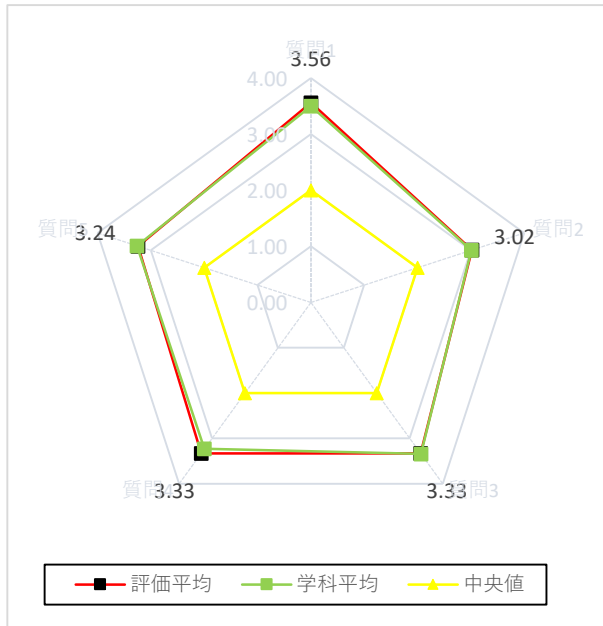
### (3) 次年度に向けての取り組み

さらに興味を持って頂けるように、身近な内容を取り込みながら講義を進めていきたいと考えます。単位取得のみを狙って受ける上級生がおり、受講態度などで悪影響も出ており、それらの学生さんに注意を促すなどの措置も考えたいと思います。



学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部 子ども学部 看護学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉 リハビリテーション 子ども 心理カウンセリング 看護		身近な生活の化学	176名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

概ね学科平均と同等の結果であった。教養科目であるため、すべての学科の学生が受講しているため、どのレベルに標準を合わせるべきか、いつも悩んでいる。また、大人数なので油断するとすぐうるさくなるので、授業に集中させるのが大変だった。工夫した点と言えば、興味を引くようなDVDを見せたり、難しい反応を例を挙げて説明したりと、できるだけわかりやすく、そしておもしろく説明することを心掛けた。

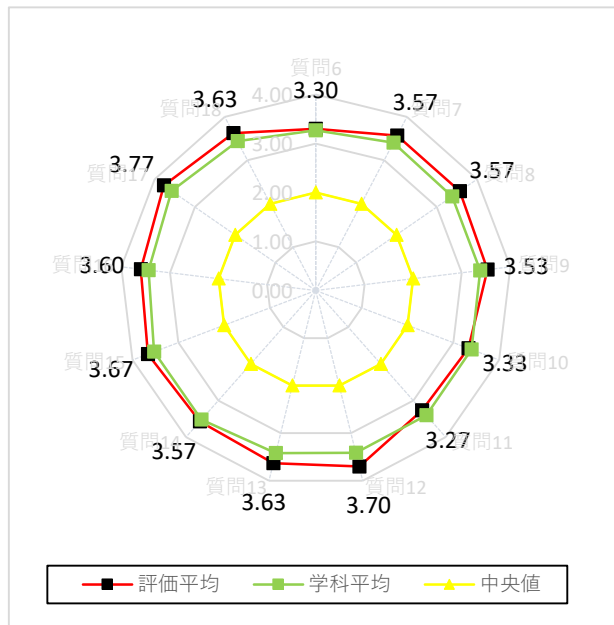
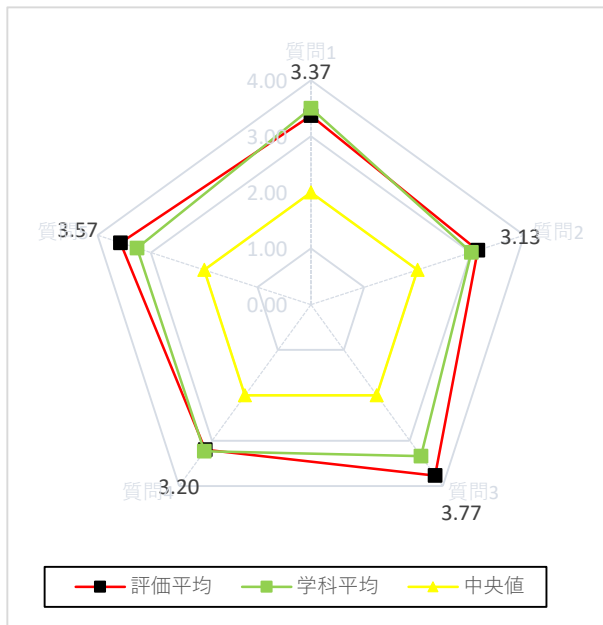
### (3) 次年度に向けての取り組み

次年度も、理系文系を含めた大人数が受講することが予想される。化学と言えば、難しいというイメージがあるので、身近な例を挙げてわかりやすく教えることをモットーとしたいと思う。よい教材を探し、興味を引くような工夫をしたい。



学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		フィットネス・スポーツ	32名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

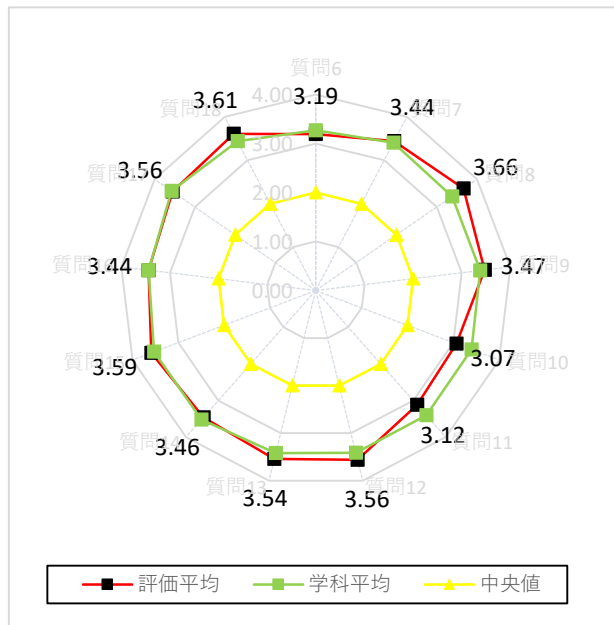
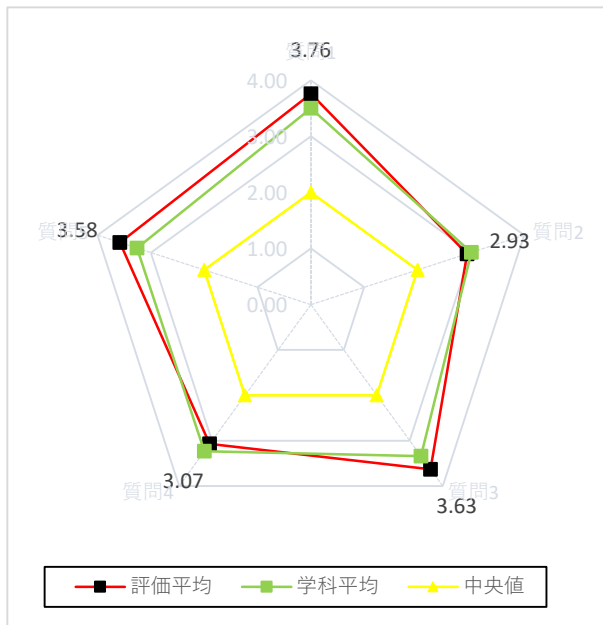
32名中、30名から回答を得た。シラバスの活用に関する項目の評価が平均より低いものの、その他は平均並み及びそれ以上の評価を得ている。

### (3) 次年度に向けての取り組み

質問10及び11が平均値を僅かに下回っている。本科目は実技であるが、授業内容について板書及び配布資料用いて説明・確認できるような授業の展開を意識する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		フィットネス・スポーツ	62名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

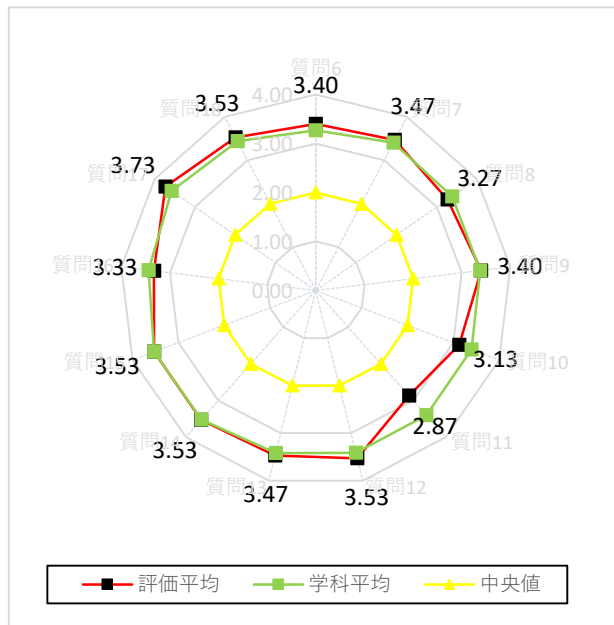
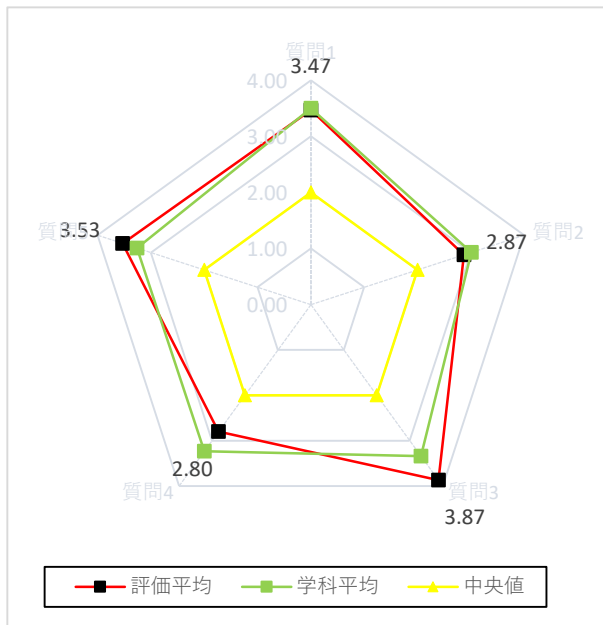
新生活が始まり初めて会う同級生、教師など不安もあったと思われるが、一緒に身体を動かすことでうまくコミュニケーションが取れ、楽しい雰囲気の中で積極的に授業に参加できたのではないかと思います。

### (3) 次年度に向けての取り組み

積極的に授業に参加できるように学習内容や目的をはっきりさせる。コミュニケーションがとりやすいような学習方法。学生の体力アップや健康作りに繋がる授業内容の充実。また、授業準備がしやすいように次回授業の伝達。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		ウェルネス・スポーツ	32名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

本教科に対するアンケートの回答率は47% (15/32) で半数からの結果であるが、数項目以外はほぼ3.0以上の評価を得ている。特に、質問6から質問18のアンケート結果では実技授業であったために教科書等を使用しなかったことによる質問11以外は良好な結果で、質問12、質問14、質問15、質問17の評価が高かった。その結果、総合評価の質問18においても3.53と高い評価であった。また、質問5の個人の総合評価も概ね良好であったことから、ある程度満足感を得られた授業であったものとする。

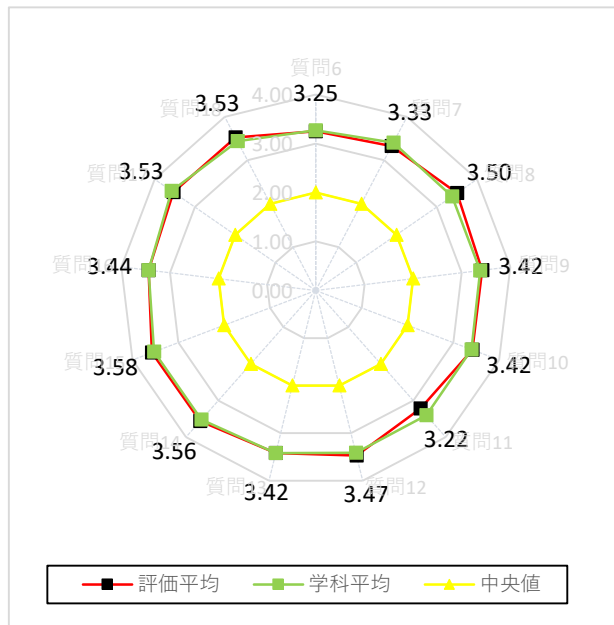
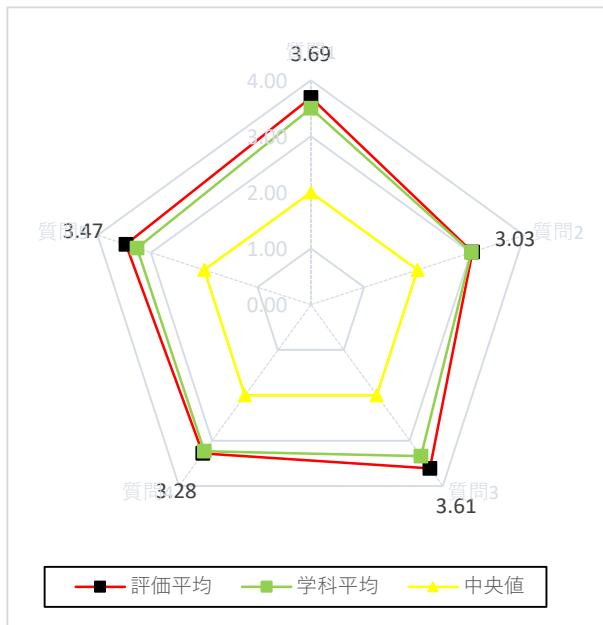
### (3) 次年度に向けての取り組み

次年度も今回同様かそれ以上の良好な評価が得られるよう、授業に取り組むたい。特に、少し低い評価であった質問2、質問4、質問11の改善として、事前の授業準備情報や資料提供を今後は考えたい。



学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		ウェルネス・スポーツ	61名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

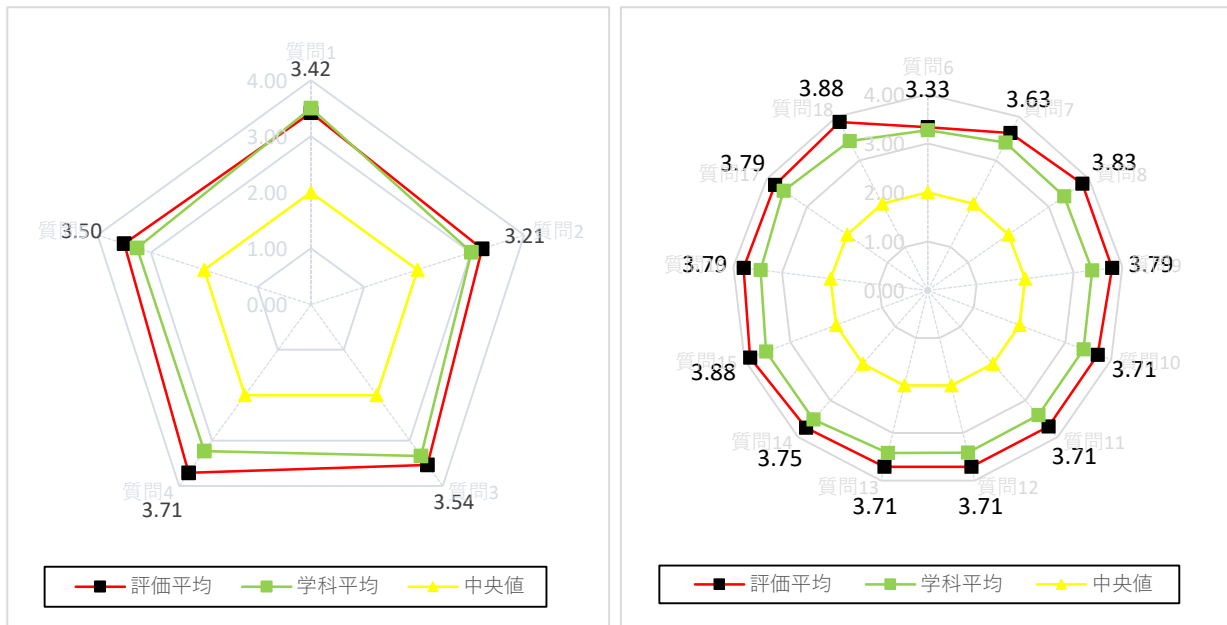
新生活が始まり、初めて会う同級生、教師など不安もあったと思われるが、一緒に身体を動かすことでコミュニケーションがうまく取れて楽しい雰囲気の中で積極的に授業に参加できたのではないかと思います。

### (3) 次年度に向けての取り組み

積極的に授業に参加できるように学習内容や目的をはっきりさせる。コミュニケーションがとりやすいような学習方法の工夫。学生の体力アップや健康作りに繋がる授業内容の充実。また、授業準備がしやすいように次回授業の伝達。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部 子ども学部 看護学部	健康栄養 社会福祉 リハビリテーション 子ども 心理カウンセリング 看護		Global Communication (English)	34名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

今年内容や先生の変更がありました。学生の反応はよかったと思います。

質問1-5に関しては学生の授業に対する取り組みで評価がよかったと思います。学生の出席率、真剣に取り組み姿勢や自己評価は平均並みでした。

質問6-18に関しては、質問6は評価平均と同じで、ほかの答えは評価平均より少し下回る数字となりました。

### (3) 次年度に向けての取り組み

まずは、学生がこの評価を積極的にするように指導します。パソコンになってから、学生が回答したかどうかの確認が難しいと感じます。回答率が100%になったらいいデータだと思われるので、100%を目指して回答してもらいたいです。

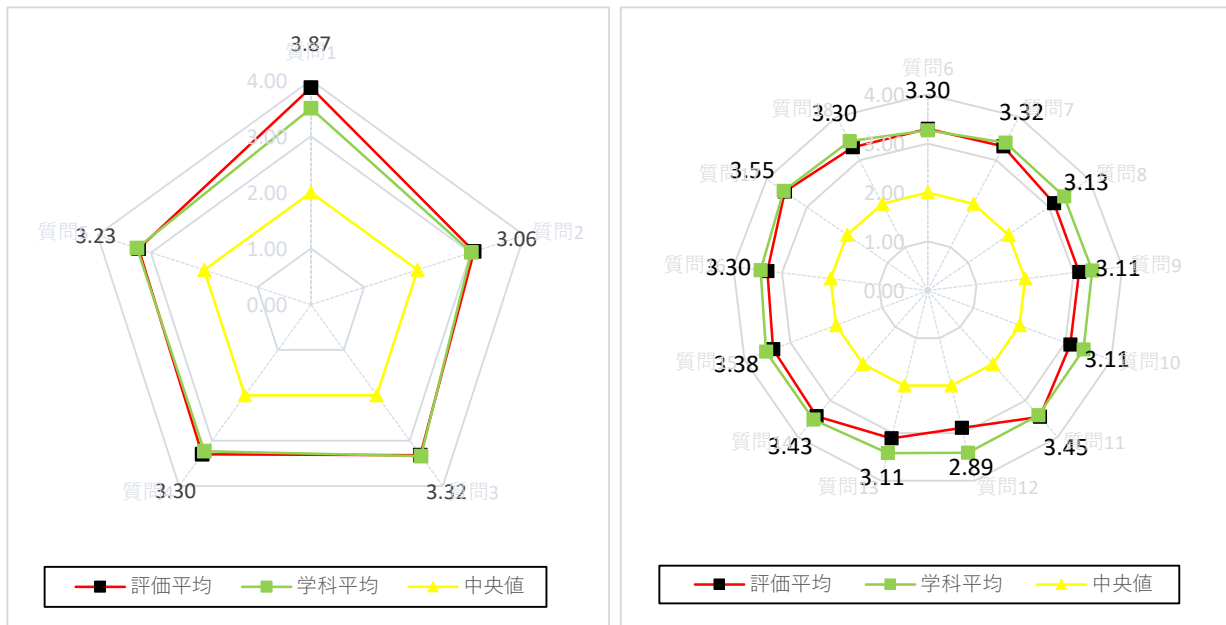
次年度は回答するようのリマインドを行いたいです。

データを見ますと授業の内容ややり方を少し変える必要あると思います。前年度より英語の基本理解の授業が物足りない反応がありましたので、POST GCEで工夫をして次年度に生かして行きます。先生方の熱心が伝わっていると思います。全体の評価画はとて素晴らしいと思います。



学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		病理学	93名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

平成30年度は講義初年度であったため準備に追われ、授業への工夫まで気が回らなかった。その結果、授業への興味・関心を持たせる工夫、授業内容の理解度を高める工夫、視聴覚機器や板書の使い方、話し方などでは評価点が学科の平均点よりやや低かった。

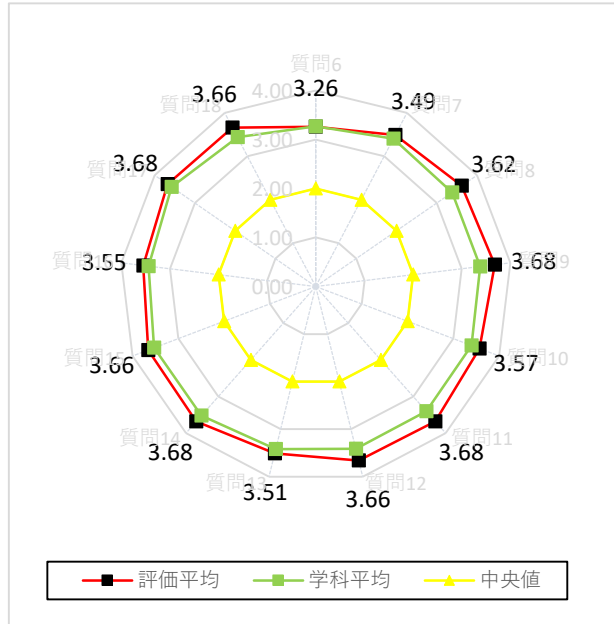
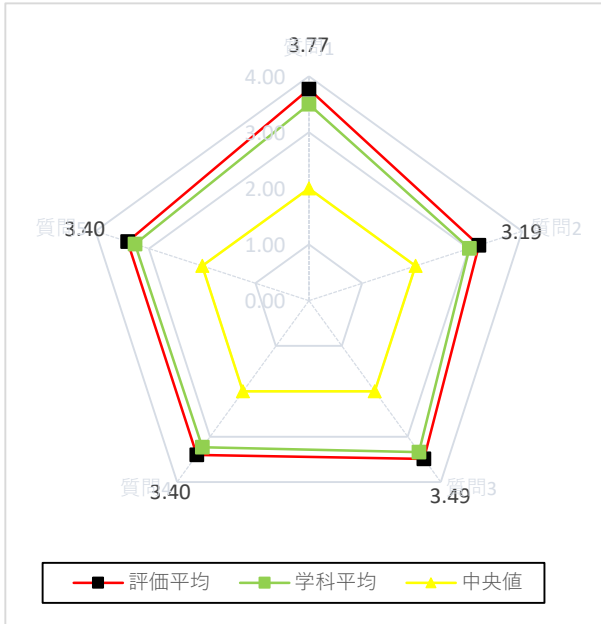
### (3) 次年度に向けての取り組み

平成30年度の評価結果を受け以下の通り改善する予定である。

1. 授業への関心・興味を持たせるために、臨床の例示を行い説明することを心がける。
2. 授業内容をできるだけ平易な言葉を用いて分かりやすく説明することを心がける。
3. パワーポイントを用いて図・表などを示し、説明を加える。
4. 私は滑舌があまり良くなく、話すスピードも早い。癖を直すのは難しいが、気をつけて講義を行いたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		病態治療学 I (呼吸・循環器)	93名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

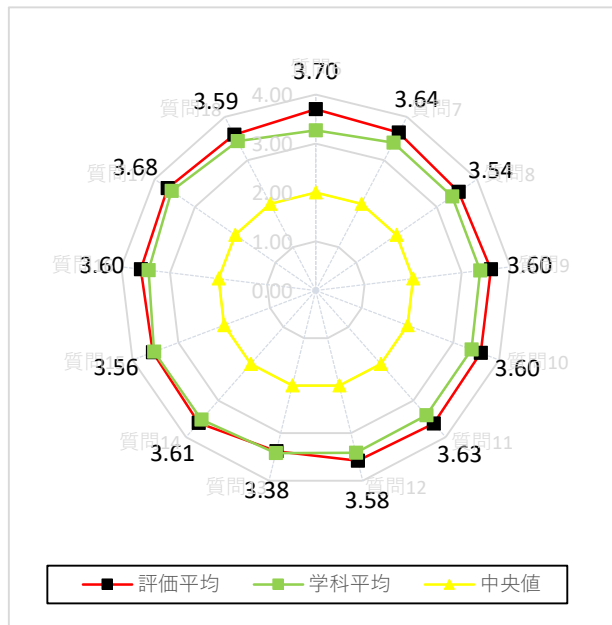
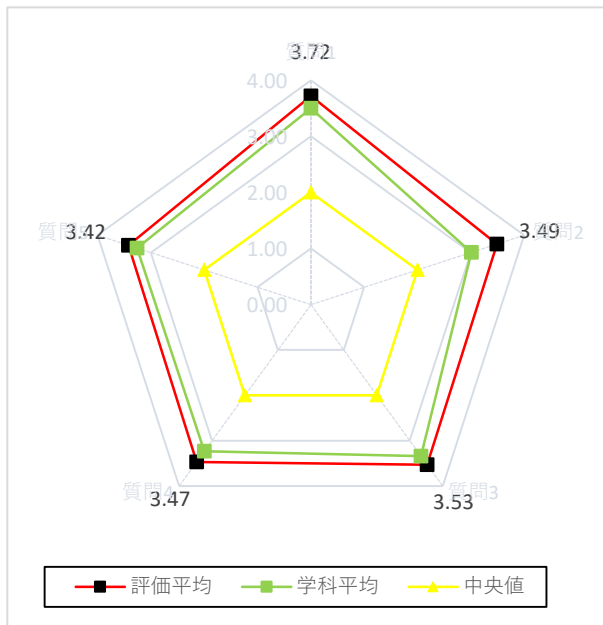
初年度であったため手探りで講義を行ったが、学生の反応がよく気持ちよく講義ができた。学科平均をおおむね0.3程度上回る高い評価していただき感謝しています。

### (3) 次年度に向けての取り組み

- 1 講義内容の深化
- 2 私の課題である早口の改善を図りたい

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		生活支援技術論	94名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

本科目は1年次に専門科目の技術を学ぶ最初の科目であるため、講義と演習を通しての学び方を掲示されているシラバスと具体的な計画表を配布して説明していった。しかし、全員が活用できていないまた、説明を聞いていない学生がいることが分かった。技術提供のための思考や技術修得には授業の予習・復習が日重要である。また、推薦入学等で、学習習慣のない学生に学修の方略を身に着けさせることも重要であるため、全員の学生がシラバスを活用した効率的な学修を促せるような工夫がさらに必要であると考え。

授業最後にリフレクションペーパーを記載させ学生の理解度や感想を毎回の授業で把握していった。授業の進行速度については数人の学生が早い、メモが取れないと意見を記載していたが、「丁度良い」という学生が多く、全員の要求に合わせることは困難であった。そこで、疑問点をリフレクションペーパーに記載させ、質問への回答を学生に提示していった。

週1回の領域会議を実施し、また、演習後にミーティングを教員で実施し、学生の情報を共有して関わり、積極的に練習や課題レポートに取り組む学生はいたが、練習に来ない学生、わからないことをそのままにし

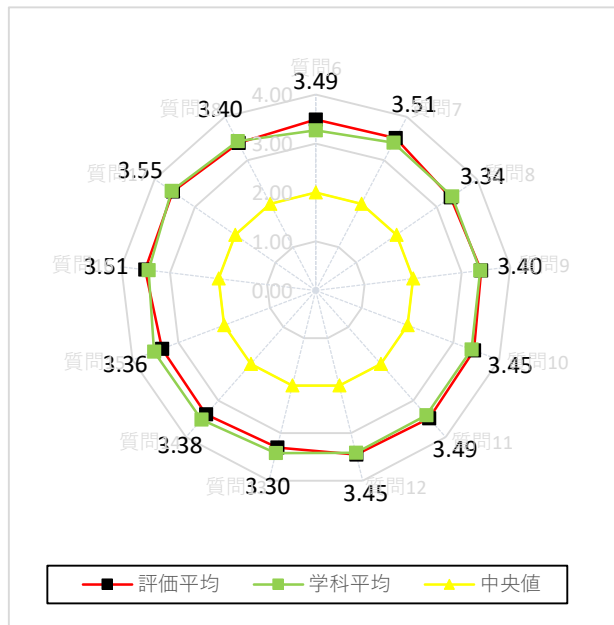
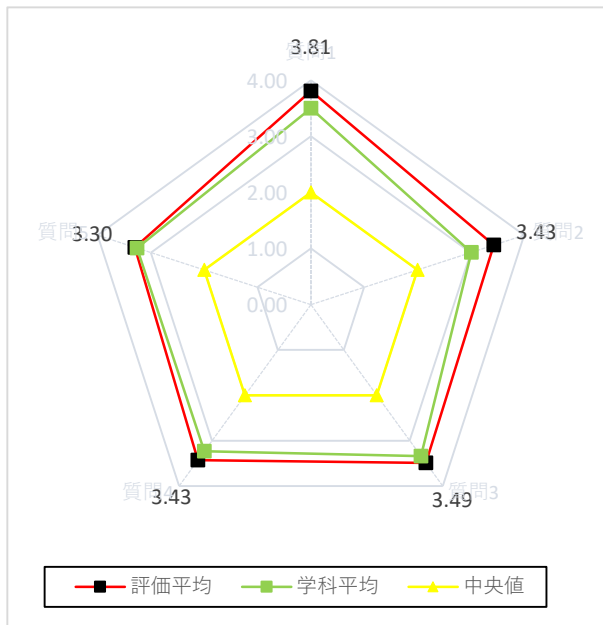
### (3) 次年度に向けての取り組み

シラバスの説明を学修習慣の獲得に繋がられるように工夫していきたい。

学生の個々の状況については今期同様、領域会議やミーティングでの情報交換と対応の検討を続けて担当教員全員の共通認識のもと関われるように継続していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		生活支援技術論演習	93名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

本科目は前期の生活支援技術論の知識と技術をベースに積み上げる形で、知識や技術を修得していく科目である。学生の取り組みに大きな差があり、前期の知識・技術が修得できていない学生は理解に困難を要し、公平な指導を心掛けたが、学生の受け止め方により公平ととらえられないことがあったのではないかと考える。そのため、質問14・15において平均よりの低い結果であったと考える。

学校に慣れ、学修をせずに乗り切ろうとする学生への関りが課題である。

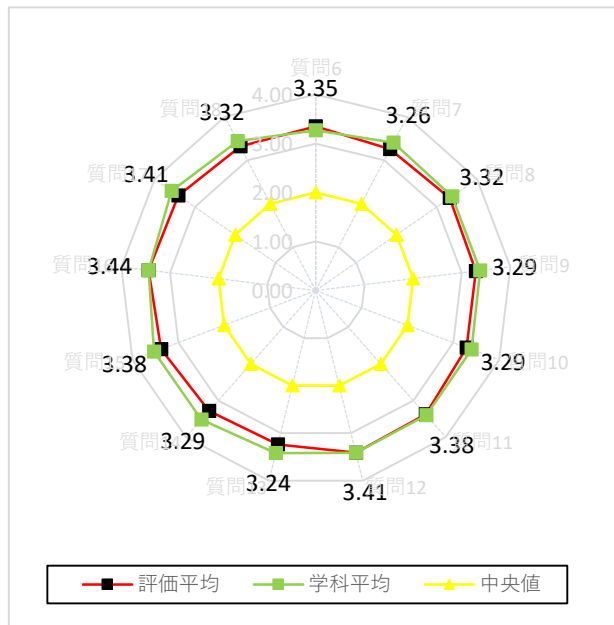
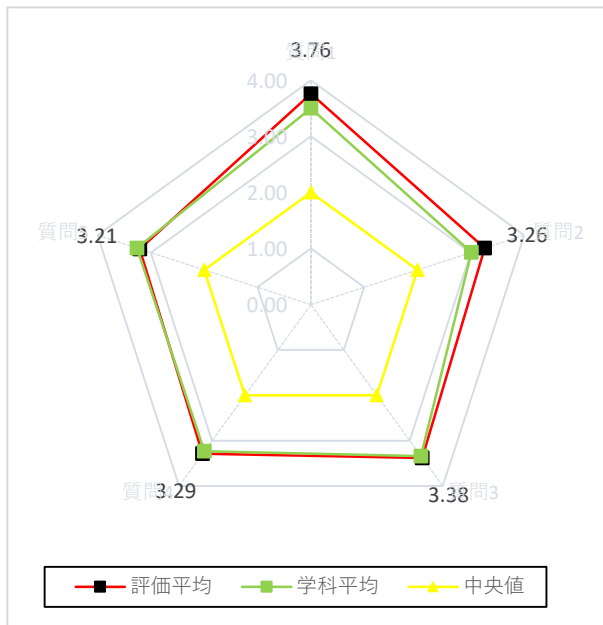
### (3) 次年度に向けての取り組み

知識・技術・態度の修得への意欲は学生によって個人差がある。また、すぐに答えを求める学生が多く学ぶ姿勢を養うことがカギとなるため、学習へのモチベーションを挙げられるような講義・演習の工夫を行いたい。

本年度、各演習後すぐに、学生の取り組み状況・技術習得状況などをミーティングで情報交換し、週1回の領域会議で講義案や演習案を検討していった。来年度も継続し、より学生の状況に合わせ、モチベーションを上げることができるような授業計画を領域の教員全員で検討し、実践していく予定である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		生活支援論実習	93名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

オリエンテーションを行い、事前学修が学生に無理なく計画的にできるようにしたが、一部の学生が事前学修の作成が間に合わず、提出期限の延長を希望し学科の方針として2度の延期となった。しかし、学生によっては最初の期限で提出したかったとの意見があり、公平性に問題があったと考える。

多くの教員の指導のもと、実習を行うため、指導案・ルーブリックを用いた評価表などを提示し実習を行ったが、実習施設の差もあり、学生同士が情報交換する中、格差を不満に思う学生が存在した。

実習は多くの施設でそれぞれに特徴の異なる施設となるため、不満とならないような学修環境を整えることが課題である。

### (3) 次年度に向けての取り組み

実習は本年初めて実習を行う施設であったため、それぞれの特徴を情報としてまとめた。また、実際に実習を行う中で施設の特徴が理解でき、指導者との関係性も構築できてきたため、本年度得た情報をもとに施設との調整を行い、各教員との情報交換を行いながら、できるだけ格差を改善して実習環境を提供していく予定である。